稲穂北に輝くにぎりめし

令和4年度**穂北中学校だより**

10月号

穂北中HP

校長 伊東泰彦

第76期、新しい穂北中の顔ができました！

本校のシンボルツリーである玄関前のフェニックスの根元に、昨年度から「生徒会マンダラ」の立看板を設置しています。昨年度の漢字は「挑」。今年の漢字(生徒会スローガン)は『**進**』。これまでの自分たちから少しでも進化していこうという意味が込められています。**進**の周囲には、学習・生活・保体及び生徒会執行部の年間努力目標が記載され、「進」を具体化する取組がマンダラチャートのように取り巻いています。看板の土台自体は昨年度建てたものを利用しながら、表面だけを毎年貼り替えていくようにしています。学校再編の令和8年度まで、毎年この看板を輝かせ続けて欲しいと願っています。

「マンダラチャート」とは？

仏教の曼荼羅(マンダラ)に由来するもので、曼荼羅のようなマス目をつくり、中心のマス目から派生するアイディアなどを周囲のマス目にに広げていくことで、アイディアを整理したり広げたりするための思考法・ツールの一つです。

「稲穂北に輝くにぎりめし」

穂北の「穂」は稲穂（米）をイメージさせますが、この穂北という場所は、古墳時代に祭事用の米をつくる「壽き田（ほきた）」だったという言われもあります。また「にぎりめし」には、生徒と学校、保護者、地域とがギュッと一丸になってにぎりめしのようにまとまる…という願いも込められています。この稲穂輝く穂北ならではの、社会に拓かれた教育課程の実現を目指し、今年の穂北中学校も様々な挑戦を続けています。

*この挑戦が、これまでよりも少しずつでも**進**化していけるよう、生徒の皆さんも頑張っています。*

校門付近の校訓

第77期生徒会役員選挙を実施！

立候補者と応援者によるｲﾝﾀﾋﾞｭｰﾀﾞｲｱﾛｰｸﾞ（上：１年生、下：２年生）

Ａ）歴史の学習をしっかりやったり、作文を書くなどして、今現実に起きている問題と向き合うことが大切と思う。
Ｂ）まずは元気なあいさつが飛び交うこと。そして手作りの花を地域に届け、地域内を花でいっぱいにしたい。
Ｃ）地域内活動のボランティアや地域行事の活性化に中学生が関わる雰囲気を作り上げておくことではないか。

Ａ）ウクライナで起きている戦争から平和を考えるに際し、私たち中学生にできることは何だと思うか？
Ｂ）この穂北地区を元気にするために、穂北中性に出来ることは何だと思うか？
Ｃ）学校再編までの期間、この穂北中で取り組むべき事があるとしたらそれは何か？

プレゼン画面の提示（左）　　校長からの質問に答える立候補者（右）

【死票を少なくするための新たな取組に挑戦！】

***死票**とは、選挙において、その票を投じた有権者の意志が反映されない票のことで、通常は落票を死票として考える場合もあります。特に小選挙区制（一つの選挙区で当選者が一人）において、死票が多いという課題が指摘されていましたが、生徒会選挙においても「投票でたった一人しか選べない」制度だと、死票が多くなりがちです。*

そこで本校では、その課題解決を目指し、投票の際に「各候補者に順位付けをして投票し、得票集計の際に重みづけを行う」方法を採用しました。これにより生徒の皆さんは各候補者全員に対し、一番なって欲しい人、次になって欲しい人…という判断に基づいて順位付けしていく方法をとりました！

9月16日は、第77期の生徒会役員を選ぶ立ち会い演説会でした。本校のように各学年が一クラスしかない学校では、とかく立候補者が少なくなりがちで「わざわざ選挙しなくても、〇〇くんと□□さんでいいが」などと事前の調整機能が働いてしまうこともあります。今回は各学年二名の定員に対しそれぞれ三名が立候補してくれ、素晴らしい公約に基づく選挙戦が展開されました。そこには生徒会担当の先生のよる様々な仕掛けも行われており、まず、お昼の放送を活用した選挙演説では「選挙管理委員から立候補者へのインタビュー」が行われていました。３年生選挙管理委員のリードにより、各候補者の熱意が引き出されていて、とても聞き応えがありました。また、当日の立会演説会では候補者と応援者によるインタビューダイアローグ（対話）が展開されるとともに、立候補者作成のプレゼンが投影され、現状分析やその解決に向けた公約がより分かりやすく示されました。更に、演説の最後には校長からの抜き打ち質問に答える場面もあり、対話力も問われる熱戦でした。

中体連・地区秋季大会が開催されました！

9月24日から、中体連秋季大会の西都児湯地区大会が始まりました。生徒数減少で部員が十分にいない中、本校の選手たちもがんばって試合を戦っていきました。夏の大会ではあと一歩というところで県大会出場を逃したり勝利をつかみきれなかった経験から、本大会では、「自分たちのプレーをする＋気持ちを強くもつ」という意識で臨みました。バドの橋口慶到さん、テニスの勢井・菊池ペアが県大会出場、サッカーが初戦突破、女子バレーも公式戦初勝利をあげるなどの活躍が見られました。惜敗した試合も含め、どの部も良く頑張ってくれました。

秋季中体連・地区大会の様子

女子ソフトテニス部

今年も郷土PRポスターを制作しました！

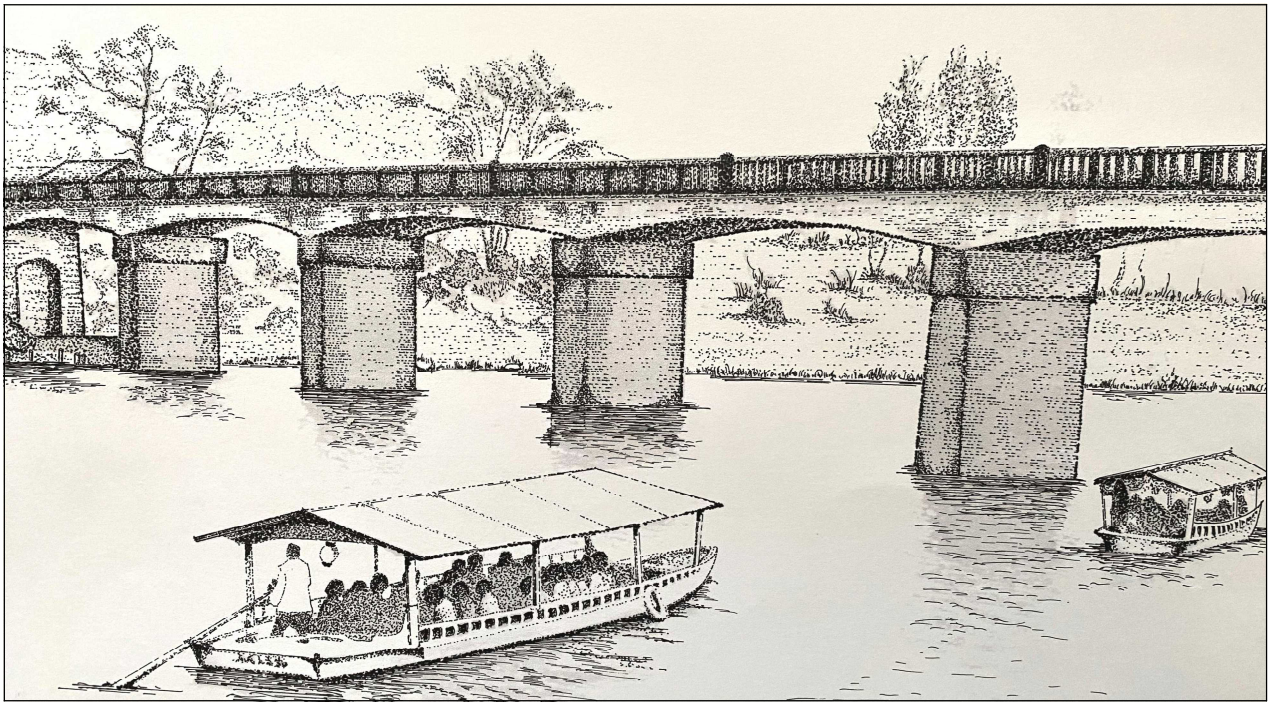
昨年度に引き続き、本年度も郷土ＰＲポスターの制作に全校生徒で取り組みました。今年は市役所の全面的な協力により、多くの素材写真の提供をいただき、力作ぞろいとなりました。校内選考←投票を経て最優秀となったのが右の作品（二年・堀内悠陽くん）です。日頃から取り組んでいる穂北神楽の名場面に「稲穂の里、神の舞」のコピーが実に見事。昨年度のものと併せた６作品を、看板として校内駐車場に設置予定です。

穂波ゆる 壽き田の里

校区内散策④

宮日新聞に、元宮崎市教育長で穂北中にも昭44～47年度まで勤務されていた内藤泰夫先生の自分史が掲載されている。私の妻中時代の恩師でもあり、大変懐かしく拝読させていただいているが、9月20日の内容は、一ツ瀬ダムへの休日遠足企画の失敗談であった▼一ツ瀬ダムに向かう米良街道入口に、杉安峡という渓谷がある。古くから山紫水明(自然が美しい山水のこと)の地として有名で、紫陽花や紅葉の美しさから昭33には県立自然公園に指定されている。当時の写真を見ると、旅館や商店が立ち並ぶほどの賑わいだが、その背景には一ツ瀬ダム建設の影響がある。一ツ瀬ダム工事期・34～38の西都市は、人口がなんと五万人を超えていたが、米良街道への入口＋妻線の終着駅でもあった杉安は、交通や経済、文化の要衝であった。宮崎や延岡から納涼の観光客も押し寄せ、屋形船が行き交い、花火大会が催される杉安峡は、当時「日向の嵐山」と呼ばれていたそうである▼昭61に架け替えられた現在の橋が嫌いな訳ではないのだが、昔の杉安橋の姿が懐かしく思い出され、台風14号の巣ごもりの合間に絵を描いてみた(下)。実はこの橋には、幼少期の思い出が二つある。一つは小学校入学前、父親の勤務の関係で西米良村に住んでいた頃のこと。盆や正月に西都へ戻る道中、未就学児にとって退屈で車酔いしそうな米良街道にようやく終わりを告げてくれるのが、長崎のカーブを曲がり終えた後にパッと開ける杉安橋の景色だった(今でもこの感覚は変わらない)。もう一つは小四くらいの頃、いきなり父母が「スケッチに行こう」と言い出し、この杉安峡の堤防に座り、高塚山を背景に旧杉安橋を描いた記憶はなぜか鮮明である。父母とスケッチに行くなど、後にも先にもこの時だけだったからかもしれない。父母のように高度成長期を西都で過ごした世代にとっての杉安峡は、昭和50年代になってもずっと「日向の嵐山」のままであり続けたのかもしれません。

（校長　伊東泰彦）



屋形船の行き交う在りし日の杉安峡

風光明媚なこの地は「日向の嵐山」と呼ばれた

【１０月・１１月の主な行事】

１０月

7日…学習発表会リハーサル
8日…学習発表会（参観日）
18日…学校支援訪問(４時間授業)
21日…地区中体連・駅伝大会
24日…清掃集会
28日…新入生説明会

１１月

4～7日…中体連県大会
18日…給食感謝集会
24・25日…校内テスト

学習発表会（10／8）に実施します！

今年の学習発表会は１０月８日（土）に実施します。昨年度に引き続き、「さいと学」の学習成果を各学年ごとに発表する他、合唱コンクールにも力を入れています。また、個人発表や郷土芸能（神楽）も演目に入っておりますので学校内外における様々な教育そして学びの成果をご覧になっていただきたいと思います。

合唱コンクール練習風景▶